

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ひなた川岸校

公表日 令和7年3月12日

利用児童数 17名(15家族)

回収数 15

Table with 7 columns: チェック項目, はい, どちらともいえない, いいえ, わからない, ご意見, ご意見を踏まえた対応. Rows are categorized into 体制整備, 適切な支援の提供, 保護者への説明等, 非常時の対応, 満足度.

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひなた川岸校		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 6日		令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15家族	(回答者数) 15家族
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 27日		令和7年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。(チェック項目原文ママ)	ご回答いただいた全利用者さん(ご家族)から『はい』にチェックをしていただきました。 利用者さんと日々関わる中で、困り感や伸ばしたい力を見極め、適切な時期に適切なライフスキルトレーニングに取り組みよう支援を計画しています。	『今』だけではなく、1年後、3年後、5年後を見据えながら、できることを増やすためのトレーニングに取り組んでいます。高校進学を望む利用者さんであれば、中学進学の時点を、中学を終えるまでに自分の特性について理解するためのトレーニングに取り組んだり、身近な大人に相談できる力を身につけたり、合理的配慮をお願いできるよう説明する力をつけたり、移動手段を考えられる力をつけるなど実践的なトレーニングへと変化をさせていきます。
2	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)(※3)が作成されていると思いますか。(チェック項目原文ママ)	ご回答いただいた全利用者さん(ご家族)から『はい』にチェックをしていただきました。 個別支援計画を作成する前のモニタリング表作成の段階で、ご家族が読んだ時に利用者さんの様子が目に浮かぶような書き方をしよう心掛けています。	左記でいうモニタリング表内に、次の課題や取り組むべきトレーニング内容も含めて作成することで、個別支援計画原案作成前のアセスメントがより明確なものになっていくのではないかと考えられます。
3	こどもは安心感をもって通所していますか。こどもは通所を楽しみにしていますか。(チェック項目原文ママ)	ご回答いただいた全利用者さん(ご家族)から『はい』にチェックをしていただきました。 長く利用されている方も最近利用を開始した方も、場所や人に安心安全を感じながら通ってくださっていることが分かり嬉しく思います。学校での疲れが見られたり、思春期特有の不安定な時期だったり、精神的な支えを求める利用者さんもおりますので、良い態度や雰囲気に関わるよう、職員の精神的な安定も大切にしています。	職員が同じような対応ができるよう、さらなる知識の獲得や技術の向上を求め続けていきたいと思っています。職員研修はもちろんだ大切ですが、日々の支援についての準備や振り返りを丁寧に積み重ねていくことが、利用者さんの幸せな未来に繋がっていくと考えます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされていない。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていない。(チェック項目原文ママ)	外部講師によるABA研修を職員・保護者向けとして開催しましたが、同じ会場で職員と保護者が一緒に研修を受けるのではなく、保護者へはYouTubeにて研修内容を公開したのみで、情報の共有や保護者からの意見を募る機会を持たなかったことが今回の結果につながってしまっていると感じています。	長期休暇のイベントに保護者も参加できるプログラムを準備しています。今年度の3月末に4日間のご家族参加型イベントを開催予定です。一緒に療育活動に参加してもらい、利用者さんの余暇時には保護者同士の情報交換の場を設ける予定です。令和7年度には夏季・冬季休暇プログラム内にも保護者同士の交流が図れるイベントを開催予定です。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会を持つことが難しかったです。	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありませんでした。近隣の公園へ出掛け、地域の学齢期の方と遊具や空間を共有することはありますが、互いに興味を持っていたかというところでもない、というのが正直なところ。トラブルに発展しないよう、公園内でも距離をかなり確保しながら遊んだことも多かったです。	新潟市児童センターへ行き、地域の他の子どもと同じ空間で、備え付けの遊具などを使って自由に過ごすことから始めていきたいと考えています。まずは、同じ空間の中で挨拶から始め、徐々に他の子どもとも遊びを通して交流を図っていったらと思います。
3	職員の配置数は適切であるか、保護者にとっては『わからない』ようです。	人員配置は満たしていますが、『手厚い配置』ができていない事が弱みと思われます。	令和7年度は新しい職員を迎え手厚い人員配置ができる予定です。専門的な知識やアイデアを出しながら、手厚い支援をしていくことが目標です。